

放射線技術部便り

～ vol. 14 ～



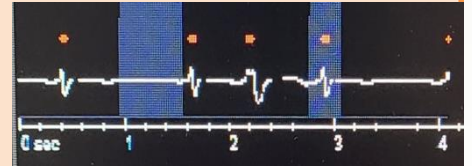
モルティフ

白十字病院 放射線技術部 広報誌

白十字病院では開院にあたり様々なモダリティで新機種を導入しました。今年度の広報誌で新機種の特徴をご紹介します。

春号

新しく320列のCTが導入されました。このように脈が乱れていてもきれいな冠動脈CTを撮影する事が出来ます。次のページで詳しく説明しております。



夏号

骨密度装置を新規導入しました。今までより詳しく骨密度の計測ができるようになりました。MRI装置が1.5Tから3.0Tになり今までより鮮明な画像を提供できるようになりました。夏号ではこの2つの装置についてご紹介する予定です。

秋号

マンモグラフィ装置が新しくなり、FUJIFILM社製AMULETを導入しました。従来の装置より検査時の痛みを軽減でき、より精細な画像を提供できるようになりました。また、合わせてピンクリボン月間として乳がんについてご紹介する予定です。

冬号

白十字病院に新しく導入されましたハイブリット手術室についてご紹介する予定です。脳梗塞の血栓回収術など福岡市西区で行えるのは白十字病院だけです。これによって福岡西部地区の救急医療の貢献を行えるようになりました。この装置と治療についてご紹介する予定です。

新しいCTの機械が入りました

当院では4月よりCanon社製320列CT装置(AquilionONE)を導入しました。

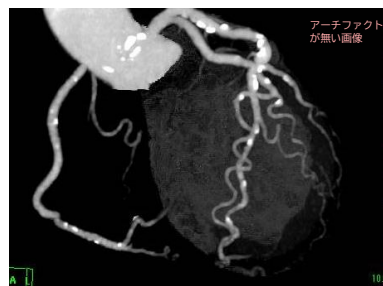
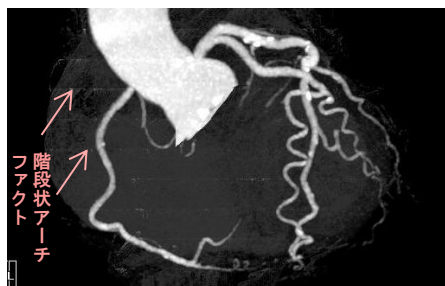
16cmのワイドエリアな検出器を搭載しており、冠動脈CTの際は、寝台がうごくことなく、1心拍の間で心臓全体を撮影することができます。

そのため従来の寝台移動によって発生する階段状アーチファクトはなくなり、撮影時間は最短0.275秒で、心拍変動・不整脈の影響も小さくなります。

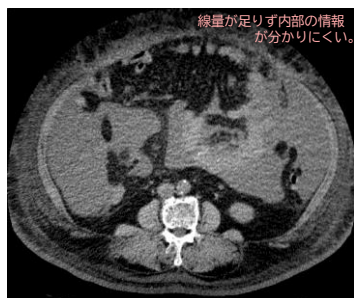
また、使用する造影剤量は従来の64列CTの約半分程度になります。

さらに、新しい画像構成技術の搭載によりノイズを低減し、従来の装置より少ない被ばく線量(約1/4)での検査が可能です。画像処理能力も高く、心臓の機能解析や他の部位の高度な3D画像の作成も可能です。

患者さんの負担を軽減しながら質の高い検査を提供できるCT装置となりました。



従来あった階段状のアーチファクト(左画像)がなくなり、診断しやすい画像(右画像)になりました。



従来機種だと体格が大きい方はノイズが多く、読影しづらい画像でした(左画像)。新機種では被ばく量を減らしてより見えやすい画像を作ることが可能になりました(右画像)。

冠動脈CTは当院心臓血管内科の受診が必要です。